

生産者の負担軽減、販路拡大狙う

特産品を代行販売

宮崎市の
情報誌会社

みやまの
九州



たぐさんの人でにぎわう「みちくさよかもん市」
―宮崎市のフーデリー霧島店(提供写真)

鹿児島からも買い取り

旅の情報誌「みちくさ」を発行するアイロード(宮崎市、福永栄子社長)は宮崎、熊本、大分、鹿児島などの生産者から特産品を買い取って観光施設などで代行販売を行っている。生産者の負担軽減を図る上、販路拡大にもつながるとして、福永社長は「生産者と消費者をつなげていい物を多くの人に紹介したい」と意気込んでいる。

福永社長は県内外で同誌の取材を展開し、生産者との出合いを重ねてきた。二〇〇五年の台風14号で大きな被害を受けた生産者を目の当たりにしたことがきっかけで、生産者に代わりの駅や観光案内所での販売を進めることを考案。買い取った特産品を施設に並べている。

「生産者の顔が見えるように」と、代行販売の一環としてストパーや市場などで物産市「みちくさよかもん市」も企画した。実際に参加することができない生産者から日持ちのする商品をアイロードが買い上げテナント料を支払い、商品を並べる仕組みだ。

現在、県内外の各地から「みちくさよかも

ん市」を開催。これまでに手作りシエラトや国産小麦粉を使ったパン、パパイア茶などを並べ多くの人が訪れた。

福永社長は「将来的には物産市の参加者で協議会などをつくり、頻繁にやっていたい」と話している。アイロード＝0985(23)3443。(宮崎日日新聞提供)